

静岡県 陸協 会報

第 5 号 (2008年 9月13日 発行)

静岡県陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠 1-14-31
吉野寿ビル 2 F
TEL・FAX 054-253-9801

オリンピック考

会長 齊藤斗志二

先日手元に届いた東京陸協の「会報」を開いたところ「オリンピックのはなし」が書かれています。この原稿を書いている今は丁度北京オリンピック大会開催中であり、昔のオリンピックについて触れてみたいと思います。

パリで開催された第二回大会四百名のスタートの珍しい写真がありました。その写真は、他の選手はスタンディングで、左足前で白線をふんでいるがアメリカ選手のみ「クラウチングスタート」の姿勢をしているものです。この大会は一九〇〇年(明治三十三年)でした。

私がこれに興味を抱いた理由は次にやるものです。私が会長をしている県体育協会の体育史や写真集の中に、大正五(六年頃の静岡師範の生徒のクラウチングスタートの写真があったからです。大正五年とすると一九一六年ですから約十数年で本県にそのスタート方法が導入されたのです。

今回の第二十九回北京オリンピックには、静岡県より十四名の選手が参加しました。陸上競技に参加するスズキ自動車所属の村上幸史、池田久美子の兩人には特にその活躍を祈念するところであります。(この会報が出る頃には結果が出ていると思います。)

県体育史によると陸上の最初のオリンピック選手は、一九三二年(昭和七年)の第十回ロスアンゼルスに出場した三名です。棒高跳の望月俊夫(静岡師範—東京師範)が4位、第五位、トラック競技で中島亥太郎(沼津商—早稲田大学)、増田磯(静岡工—日立)が四×四百リレーで第五位に入賞しています。

あるオリンピック優勝選手が「世界新記録は容易に出せても四年に一回のオリンピックに勝つことは至難の業で、全てに恵まれなければ勝つことはできない。」と言っていました。それ故に、オリンピックはスポーツの最高最大の国家的イベントなのです。

今回の第三十回大会はロンドンで行われます。そして二〇一六年(平成二十八

年)に行われる第三十一回大会に東京が立候補していますが、今の日本の沈滞ムードを払拭し、日本経済が再び浮上するためにも是非実現されたいと考えております。



上半期の対外試合

理事長 亀山敏郎

いよいよ北京オリンピックが開幕し連日、日本選手の活躍が伝えられております。本県からは、スズキの村上幸史選手(やり投)、池田久美子選手(走幅跳)が出場します。両選手の力いっぱい健闘を期待します。女子マラソンの野口みずき選手の故障による欠場が今朝、発表になりました。女子マラソンが、優勝の最有力候補であっただけに残念でなりません。が、同時にオリンピックに勝つことのみならず、ここ一番の大舞台に、最高のコンディションでのぞむ難しさを感じずにはおられません。あとは、のこり

の女子マラソン選手の活躍と、室伏選手をはじめとする日本選手団の健闘を祈るのみです。オリンピックといえば、静岡県出身の生粋の日本代表選手は、モントリオール大会の馬塚選手(二百リ・スズキ)以来ありませんが、本県からも、今盛り返しつある大学・実業団の選手たち、次のロンドン大会に日の丸を胸に活躍することを願っております。それがひいては県内の小さなジュニアの子供達の陸上普及の大きな力になると、思っております。

今年、六月のオリンピック最終選考になった日本選手権に、静岡県から二十六名(男十二名、女十四名)が出場しました。昨年より三名減でしたが、男子やり投の村上選手・女子やり投の海老原選手(スズキ)の優勝、棒高跳で、鈴木選手(東海大)、笹瀬選手(早大)の二位、三位、走幅跳の志鎌選手(筑波大)の三位、女子走幅跳の池田選手(スズキ)の三位、女子二百リ、中村選手(慶応大)、長倉選手(都留大)の三位・七位、一万リ松岡選手(スズキ)の四位、男走高跳の黒田選手(静岡陸協)、走幅跳の堀池選手(早大)七位など、入賞者が増えています。大昭和や旭化成時代にくらべるとマダマダですが、インターハイや国体で活躍した若い選手たちが少しずつ育って来ていると考えられます。世界ジュニアには、二百リに羽根選手(日体大)、棒高跳に笹瀬選手(早大)が、日本代表として出場しました。

全国インターハイは埼玉熊谷競技場で七月二十九日より五日間、開催されました。静岡県からは、東海高校大会(六位

以内)を突破して出場した選手は、六十六校、八十八名(男五十一名、女三十七名)で昨年とほぼ同数の参加でした。東海から六名の突破者のうち、三名以上を静岡県でしめた種目は、男子四百斤、千五百斤、棒高跳、ハンマー投、女子百斤、二百斤、四百斤、円盤投、槍投、砲丸投、でそのほとんどの種目で全国大会入賞者をだしております。反面、一人も東海大会を通れなかった種目は、男五千斤、百十斤、女三千斤、混成競技、競歩の五種目でした。五千斤は、二年連続して東海大会突破はなりませんでした。今年、全国では優勝者は出ず、二位に女子砲丸投の竹山さん(浜松湖南)、三位に、女子二百斤の渡辺さん(富士見)、男子四百斤リレーの藤枝明誠チームにとどまり、四位から八位に、十三名の選手が入賞しました。これらの選手の大分国体にかけての活躍が期待されます。

中学校は、新潟市で、全日本中学校大会が開催されますが(八月十八日〜二十一日)その参加標準記録を県大会で突破した選手は、百十五名(男五十八名、女五十七名)の多きにおよび昨年の倍近くの選手たちが全国へ進みました。そのなかには、男子四百斤の望月くん(由比中)の49秒82、千五百斤、三千斤の勝亦くん(御殿場富士岡中) 男子走幅跳の松原君(静岡東中) の6尺93、女八百斤、千五百斤の木村さん(静岡籠上中) など全国的にもすぐれたレベルの選手の活躍が期待されます。全国大会への参加者が、各種目に亘り多数みられることは、本県陸上の底辺のレベルの広がり、感じられ大変嬉しい事でありませぬ。以上、全国大

会の近況を述べましたが、普及をはじめ、ジュニアの指導者や、中高一般の指導者に深い敬意を払いたいと存じます。普及といえ、八月二十九日より東京で全国小学生交流大会が開催され本県から、県陸協普及部より総監督西尾誠さんを選出し、個人種目十二名、リレー男女一チームを代表として送ります。同時に、八月三十一日の東海選手権大会に男女・混成のリレーチームを県代表として九チーム派遣します。例年、全国でも東海でも好成績をのこしているジュニアの代表に楽しんで大会を経験してほしいと思います。

こうして見ていくと、静岡県の陸上競技が、小学ジュニアから中学へ、さらに高校・大学へとその力を浸透させつつあります。それを支えている多くの指導者の献身的な努力を称えたいと思います。その意味では昨年は、指導者講習会を二回(ハンマー投、円盤投)開きました。今年も短距離やハードルなどこれから指導者講習に力をいれていかなければならないと、予定しております。

県協会では、八月は九日に東海中学校陸上を草薙で、十三日に理事会・選手選考委員会、二十二日〜二十四日に国体強化合宿、富士山クロスカントリリー大会、月末の三十・三十一日に東海選手権大会を草薙で開催します。今年の国体は、大分県で開催され例年より早く十月三日より七日まで陸上競技は開催されますが苦戦が予想される国体にむけ、八月後半より三回の練習会・合宿をおこない本大会に備えます。二年に一回ずつ国体種目がかわり今年、参加人数も四名へり二十

九名になりちようどその種目に強い選手がいればいいのですが、なかなかそうもいかず強化部も苦勞しております。最近、年齢をかさねたせい、中学校の大会等に高校の先生方の審判や見学がすくないように思われます。自分のチームの指導で、手いっぱいという点もあるかもしれないませんが、亡くなられた富士見高校の花崎先生や富士高校の加藤先生のように中学の大会にマネジャーを二、三人つけて審判しながら有望な選手をさがしていた頃を思い出します。強い選手・よいチームに必ず優秀な指導者ありの格言は今も生きておりますしそのような可能性のある選手たちをつぎの世代に送り出していくジュニア―中学―高校―大学・実業団のラインを確立していくよう協会も努めていかなければと思います。少子化や学校環境の悪化、練習場所の減少など、条件はわるくなっておりますが、高校野球もチーム二校で一つになり県大会に参加している現状をみ、指導者も合同練習や、情報交換など細かい指導で乗り切って頂きたいと思っております。

県陸協略史(5)

参与 伊藤英一

一、高等学校体育連盟II

高校生の陸上競技の登竜門

中国の黄河の上流に竜門という山があり、ここが激流で鯉がここを登ることを「登竜門」といい、「出世」とか「認められる」とかと言われているのである。

高校生の陸上競技の登竜門はインターハイである。戦前は中等学校の大会は

「インターミドル」といい予選なしで参加できた。大正八年五月四日(一九一九)、東大で第一回大会が行われ、二九回も続いた。(最後の大会は昭和二二年京都西京極での大会で、見付中学II現磐田南が優勝している。)

学生の登竜門は「インターハイ」があり、第一回大会は昭和三年五月二六(二七日(一九二八))に明治神宮外苑競技場で行われた。

神宮外苑競技場は、大正十三年十月二五日に竣工。当時の政府は、十一月一日より全国各都道府県単位での各種の競技を、「明治神宮大会」として主催した。これに刺激され県下の中等学校が体育振興のため、「静岡県中等学校体育連盟」を大正十五年十月二三日に結成し当局にグラウンド建設や体育協会の創立等を要請、陳情等に走った。(体育協会は昭和三年十月二四日に創立。グラウンドは昭和十六年四月十九日草薙に竣工)

静岡県のスポーツの基盤整備は、中等学校の力によるものと言ってよからう。

二、高等学校体育連盟の創立

戦後新しく学制が敷かれ六・三・三・四制となり、昭和二二年(一九四七)新制中学が、翌年昭和二三年(一九四八)に新制高校が発足した。

県体育協会は昭和十八年三月国の指示で、社会体育は「県体育会」に、学校体育は「県学徒体育振興会」に二分されていた。

戦後スポーツ関係者がスポーツマンクラブを結成し、県体育協会の再建に当たった。昭和二二年四月二七日に民間人の戸塚昌宏氏を会長に新しくスタートし

た。この時中等学校生徒一人十円でという案があり、それなら独自に団体をと体育教師の宮林武雄（静岡中）・竹原政一（静岡商）藤田純男（静岡高女）現城北）等が主になり、県教職員組合委員長寺田鏡氏と協議し、また校長会とも合議し一足早く昭和二十一年一月二日に発足させた。全国高体連は、昭和二十三年七月二三日に組織化され本県もそのリーダー役を担った。

三、高体連会長

会長は初代静岡中学校長の間処武夫先生で、以後県校長会よりの推薦で決められた。以下を列記すると（敬称略）

- 二代鈴木清一、三代山本松市、四代大井宗一、五代諏訪卓三、六代鈴木誠志、七代望月庄次郎、八代相佐明一、九代芦沢晴雄、十代三浦朝治、十一代渡邊福太郎、十二代竹田昌平、十三代梶原享、十四代伊村才次郎、十五代田口一男、十六代望月正、十七代戸本隆雄、十八代織田元泰、十九代永田實治、二十代安達忠勝、二一代勝澤要、二二代山崎博昭、二三代吉本秀樹、二四代山口一三、二五代太田恒義、二六代松浦博實（現在）。

会長は全国大会や東海大会での生徒の激励及び関係会議に出席するなど、高校生のスポーツ活動に尽力された。また、県体育協会の副会長職を兼務し国体や県スポーツ祭、更には国体誘致等に奔走した。

四、陸上部長（現在委員長と改称）

- ・昭二三〜昭二七 初代竹原政一（静岡商）
- ・昭二八〜昭四一 二代生駒定文（西遠）
- ・昭四一〜昭四二 三代山本武（沼津東）
- ・昭四三〜昭四四 四代伊藤

- 菊造（浜松南）
- ・昭四五 五代大原文夫（静岡高）
- ・昭四六〜昭四七 六代小笠原正（磐田農）
- ・昭四八〜昭五十七 七代伊藤久雄（浜松西）
- ・昭五一 八代大石和男（浜松城北工）
- ・昭五二〜昭六一 九代石田徳郎（清水商）
- ・昭六二〜昭四十四代池田毅（浜松湖東）
- ・平五〜平八十一代山本 敬（浜松湖南）
- ・平九〜平十一 十二代新谷誠規（静岡西）
- ・平十二〜平十六 十三代神山心一（沼津西）
- ・平十七〜現在 十四代綾部信明（沼津東）

この部長の方々が中心になり、互いに連携し静岡県陸上のため東海大会及び全国大会の出場の手続きや、現場指導に汗を流した。「誇り高きリーダー」であった。特に、昭和三十六年（一九六一）及び平成三年（一九九一）の全国大会及び四年毎の東海大会の開催に尽力した。この方々が「縁の下の力持ち」で陰の功労は多大であった。

五、県高体連マーク

全国高体連マークは、三つのKを組み合わせ力（KRAFT）、技（KUNST）、明るい精神（KLARHEIT）である。

県は富士山を形どる三つの矢で力、技、明朗であります。赤は情熱、白は清さ、青は広い海を表し、矢は向上進歩を表している。この旗を先頭に全国大会の開会式で、選手団が皇太子殿下の前を堂々と毎回行進している。



第一回 理事会・専門委員長会議開催
（国体選手選考委員会も兼ねる）

平成二十年度、標記の会議が八月十三日、静岡草薙陸上競技場役員室で開催された。最初に斉藤斗志二会長が多忙なかかけつけて戴き、最近のオリンピック事情をまじえながらの挨拶で開会した。議長選出後、亀山敏郎理事長の前期協会の活動報告を詳細に述べられ、また後期に向けての抱負も語った。

○ 議事項目については以下のとおり。

- 1) 第六三回国民体育大会県選手団（選手）選考
 - 2) 昨年度教化委員会決算報告（国体・都道府県駅伝関係等）
 - 3) 第二五回静岡国際陸上競技大会会場について
 - 4) 第二（新）東名開通記念チャリティマラソン大会
 - 5) 静岡・山梨両県主催の富士山駅伝大会（仮称）について
 - 6) 来年度協会競技会（大会）日程一次案の説明
- 報告事項として
- 1) 本年度協会、各栄章受賞者について（総務委員会より）
 - 2) 本年度市町村駅伝競走大会について（駅伝事務局より）
 - その他（連絡事項）



平成二十年度各栄章表彰

○ 永年勤続功労者表彰

故 佐藤光司（沼津市）

○ 功労者表彰

- 井出幸夫（富士市） 山本洋一（富士宮市）
- 末高義美（静岡市） 風間正克（静岡市）
- 佐山勝人（浜松市） 渥美伸悟（浜松市）

○ 日本記録樹立表彰

笹瀬弘樹（新居町）

○ 優秀選手表彰

- 飯塚翔太（御前崎市） 渡邊 諒（浜松市）
- 竹山知佳（浜松市） 小栗良太（浜松市）
- 小林柊也（静岡市） 川崎卓也（浜松市）
- 村越裕太（新居町） 瀧 光（浜松市）
- 湯田佐枝子（御殿場市）
- 大石真利那（御殿場市）
- 古屋佳那（御殿場市） 新村芽依（御殿場市）
- 山崎 楓（御殿場市）

平成二十年度日本陸上競技連盟公認審判員昇格者

○ 日本陸上競技連盟公認S級審判員への昇格者（平成二十年四月一日）

- 東部支部：秋山二郎 青島明美
 - 中部支部：樽松幸雄 芹澤謹一
 - 西部支部：石寄忠雄 田丸博俊
 - 西部支部：松下 功 山口丈男
 - 小平勝敏
- 以上九名の方が、日本陸連の審査に合格しS級への昇格
- 日本陸上競技連盟公認A級審判員への昇格者（平成二十年四月一日）
- 東部支部：西尾 誠 勝又好久
 - 佐野 靖



合格しA級への昇格
以上十四名の方が、日本陸連の審判に

中部支部：田中 茂 植平充彦
瀧川宗浩

西部支部：藤田一仁 石山睦巳
梅林 弘 後藤文孝
藤田浩久 山下由実
吉田健一 竹田善範



静岡国際陸上開催

日本グランプリ第四戦、第24回静岡国際陸上競技大会が五月三日袋井市のエコパスタジアムで開催された。前日の歓迎レセプションでは、海外から六カ国の招待選手(オーストラリア・アメリカ・中国・韓国・台湾・バハマ)と国内招待選手・日本陸連・東海陸協・県陸協の役員ら約三百人が出席し盛大に行われた。またこの大会は、北京五輪代表選考会も兼ねており各選手とも記録に挑戦した。男女15種目のうち女子四百メートルで丹野麻美選手(ナチュリル)が51秒75の日本新記録をマーク、男子四百メートルでは金丸祐三選手(法政大学)が45秒21で五輪参加A標準記録(45秒55)で突破した。またやり投げでは地元の海老原有希選手(スズキ)が五輪B標準記録を上回る56^{トイ}26の記録をだした。



スズキ総合十連覇 「中部実業団陸上」

五月十一日、岐阜メモリアルセンター長良川競技場において、中部実業団陸上競技大会が開催された。スズキ勢が団体総合で10連覇を成し遂げた。特に過密日程(大阪G P直後)のなか、池田久美子選手が二種目優勝(走り幅跳び・百メートル障害)、村川洋平選手が砲丸投げ・ハンマー投げ優勝、円盤投げ三位入賞を果たし総合優勝に大きく貢献した。

〈団体総合結果〉
総合優勝スズキ(142点)
総合二位トヨタ自動車(134、5点)
総合三位小島プレス(90点)

東海陸上競技協会賞受賞者 (本県関係)

故佐藤光司 山下真里 石野吟策
高田 均 若月伸元



県選手権大会

本年度、静岡県陸上競技選手権大会が七月十二日(十三日草薙陸上競技場)で開催された。一日目男女20種目・二日目男女21種目の決勝を行った。女子棒高跳びで尾上裕香(日体大)選手が3^{トイ}82の県新・大会新記録で優勝(三連覇)、また女子ハンマー投げの武川美香(スズキ)選手は56^{トイ}91の大会新で優勝した。男子やり投げでは北京五輪代表の村上幸史(スズキ)選手が75^{トイ}96で大差をつけて優勝した。高校生では、女子百メートル渡辺美里(富士見)選手・砲丸投げ、竹山知佳(浜松湖南)選手の両名が初優勝し、県選手権者となった。その他、陸協二〇年度表彰も行った。



東海高校総体

六月二十日～二十二日、岐阜・長良川陸上競技場で全国大会出場権をかけた熱戦がくりひろげられた。主なところでは、初日、男子四百メートルで伊堂駿(浜松商業)選手がすばらしい走りを見せ49秒73の好記録で優勝、二日目女子百メートルで渡辺美里(富士見)選手がこれもまた優勝。またフールド男子棒高跳びでは鈴木惇也(浜松市立)選手が自己新記録で優勝。男子円盤投げでは中村一裕(榛原)選手が43歳58、女子では加藤由記(磐田農)選手が43歳88で、それぞれ優勝。最終日やり投げでは、男子が清川将貴(新居)選手が、女子では竹山知佳(浜松湖南)が優勝。男子千六百メートルは浜松市立チームの連覇と浜松商業第3位・藤枝明誠5位入賞を果たした。

県中学総体

七月十九日～二十日、全日中・通信陸上全国予選を兼ね、草薙陸上競技場で開催された。男子では共通四種、浜松鬼馬中の馬淵和哉選手が県中学新で優勝し全国標準記録を突破した。また御殿場富士岡中の勝亦祐太選手は三年千五百メートル・共通三千メートル(大会新)で優勝、女子では静岡籠上中の木村友香選手が共通八百メートル・千五百メートル(大会新)で優勝した。八月、新潟での第三十五回全日本中学陸上競技選手権大会での静岡旋風を。

本年度は、このほか百名以上の県内選手が標準記録を突破し全国大会に駒を進めた。

第五十一回東海(五県)陸上競技選手権大会兼第九十三回日本選手権陸上競技選手権予選会

八月三十日～三十一日、静岡草薙陸上競技場で標記の大会が開催された。一日目男女二十種目・二日目男女二十一種目の決勝を行った。富士見高校渡辺美里選手は、女子百メートル(12秒38)・二百メートル(24秒50)の二冠を手中にした。またスズキの武川美佳選手は女子ハンマー投げで55歳70・女子棒高跳び青島綾子選手は3歳50で優勝・男子ハンマー投げ馬淵将臣(東海大四年)選手は試技後半で64歳02を投げ自己新をマーク、九月開催の日本学生対校選手権への大きな手応えを感じたようだ。男子棒高跳び柴田孟也(興誠ク)選手が5歳30・女子砲丸投げ竹山知佳(浜松湖南高)選手が13歳29・女子やり投げ海老原有希(スズキ)選手が50歳98でそれぞれ本年度東海選手権者となった。



ミズノSC、市長訪問(静岡市)

同クラブ所属の小中学生十名が静岡市役所を訪問した。八月、新潟で開催される全日中陸上選手権大会・東京での全国小学交流大会、また十月、神奈川県でジュニア五輪にそれぞれ出場する本県陸上界の期待の新星たち。小島市長も結果を楽しみと声援をおくった。

投稿 静岡市立観山中学校

陸上競技と私

三年 石上尚枝

私は、幼い頃から走ることが大好きでした。早速、陸上競技部に入り、私のデビュー戦は低学年四百メートルリレーでした。毎日の練習で特に、競技者同志のバトンパスがスムーズにできた時の感覚・感触は私にはなんとも言えません。初の大会では失敗に終わり記録無しでしたが、私は短距離を中心に練習をしています。私はリレーに対する気持ちは、ますます強くなりました。「もっと、もっとと速く」、ある本を読んだ時のことですが、短距離は天性が他の種目よりも影響力が大きいという内容でした。私にはそのようなものはありません。でも走ることは好きです。自分なりにフォームの研究やらオフシーズンにはひたすら筋肉トレーニングと苦痛との戦いでした。いよいよ三年生となり、女子共通四百メートルリレーにエントリー、四人のチームワークが全てです。今までの努力を最大限に発揮するためにも、また影で支えてくれた

五輪イヤーを迎え、メディアも気合の入った取材体勢に突入。今シーズン開幕直後から世界では次々に新しい記録が生まれた。また本県からは、県民・関係者の皆様のお力添えで、北京への出場権を得た選手を、今回も送ることができホッとしている。この会報が発行される頃にはすでに五輪も閉幕し、結果もでていいる。と同時に次の大会への出発点でもある。

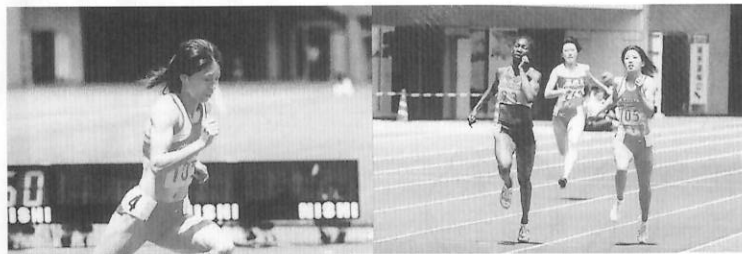
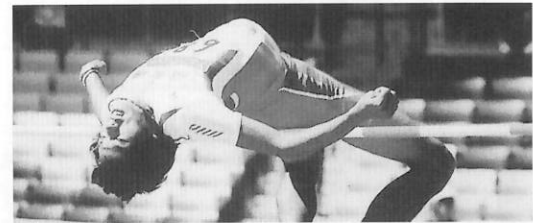
周囲の人達への感謝もこめて、全力でゴールに飛び込みました。陸上競技を通して感じ取ったことは、日頃のトレーニングが次第で結果はしっかりとついて来るものだと言ったことを学びました。

編集後記



◎橋本美智夫 ・ 亀山健士
 ・ 内田光英 ・ 松井清和
 ・ 矢辺 進 ・ 朝比奈洋子
 (印刷) (株) エスケイピー)

photo graph



～平成20年度上半期スナップ～